PCCS

壱

問題Ⅰ 下記のA〜Dに適切な語句を入れ、文章を完成させなさい。

PCCS（ピーシーシーエス）はPractical（プラクティカル） Color（カラー） Coordinate（コーディネート） System（システム）の略称で、財団法人日本色彩研究所が開発した表色系である。日本名を（ A ）と呼び、その名の通り（ B ）を考えるのに適している。主な特徴に（ C ）と彩度を複合した概念であるトーンがある。これによって色を（ D ）とトーンの2つでとらえるのでヒュー・トーン・システムという。

①色相　②明度　③彩度　④日本色研配色体系　⑤配色

問題Ⅱ 下記のA〜Dに適切な語句を入れ、文章を完成させなさい。

PCCSの色相は全部で（ A ）色相に分割されている。色相番号１番は（ B ）、色相番号24は（ C ）の色相で、その間を見た目に等間隔に分割している。互いに相対する位置には（ D ）が位置している。

①20　②24　③赤紫　④紫みの赤　⑤心理補色

問題Ⅲ 次の説明文のうち、正しい文に○、誤りのある文に×をつけなさい。

①PCCSでは、赤の色相番号は２番である。
②紫みの赤は、PCCSの色相記号ではRPで表す。
③色料の三原色は、PCCSの色相環上では「黄」と「緑みの青」と「赤紫」にあたる。
④色光の三原色は、PCCSの色相環上では「黄みの赤」と「緑」と「紫みの青」にあたる。

問題Ⅳ 次のA〜Gを色相番号が小さいものから順番に並べなさい。

A　B　C　D　E　F　G

参

問題Ⅰ 下のA、Bの色相に該当する色記号を①〜③から１つずつ選びなさい。

A 　①2R　②12G　③18B

B 　①24RP　②4rO　③8Y

問題Ⅱ 下の色に該当する色記号を①〜③から１つずつ選びなさい。

　①v12　②lt12　③dk12

問題Ⅲ 下記のA〜Fに語群①〜⑥から適切な語句を選び文章を完成させなさい。

PCCSの色の表示には２通りの方法がある。１つは色の三属性の表示であり（ A ）−（ B ）−（ C ）の順に連記する。これをPCCS記号という。たとえば真っ赤なシグナルレッドは（ D ）のように表記する。

また、もう１つの表示方法には（ E ）の記号に色相番号を連記する方法である。たとえば（ D ）は（ F ）のように表記する。

①彩度段階　②明度段階　③色相記号
④トーン　⑤2R-4.5-9s　⑥v2

問題Ⅳ 下のA〜Dに適切な語句を入れ文章を完成させなさい。

色の三属性にそって規則的に色を空間に配置したものを（ A ）という。この色を配置するためのルールである「表色系」は、その考え方によって（ B ）系と（ C ）系に分けられる。（ B ）系の表色系は色を見た目で等間隔になるように区分したもので、必ず「色票」が存在している。色票を持ったカラーシステム全般のことを（ D ）という。

問題Ⅴ 下のA〜Cに適切な語句を入れ文章を完成させなさい。

PCCSの無彩色の表示では（ A ）はW、（ B ）はBk、（ C ）はGy−5のようにGyの後に明度の数値をつける。あるいはn−5のようにnの後に明度の数値をつける方法もある。Gyはグレイ、nはニュートラル（無彩色）の頭文字である。

弐

問題Ⅰ A〜Gにあてはまる語句を語群より選び、文章を完成させなさい。

PCCSでは明度のことを（ A ）といい、明度段階は数値で表す。最も明るい白の明度を（ B ）、最も暗い黒の明度を（ C ）とし、その白と黒の間に７段階の灰色を挿入し全部で９段階に分割している。これがPCCSの明度段階（明度スケール）である。

さらに細かく分類する場合は、白と黒の間を9.5、9.0、8.5……のように（ D ）刻みごとに明度段階を設けることで、9.5と1.5の間に15段階の無彩色を配置し、全部で17段階の明度段階を設けることができる。

明度段階が1.5〜4.0を（ E ）の色、4.5〜6.5を（ F ）の色、7.0〜9.5を（ G ）の色という。

①サチュレーション　②ライトネス　③12　④10
⑤9.5　⑥0.5　⑦1.5　⑧高明度
⑨中明度　⑩低明度　⑪高彩度　⑫低彩度

問題Ⅱ A〜Gにあてはまる語句を語群より選び、文章を完成させなさい。

PCCSの彩度は、すべての色相において（ A ）つの段階に分割されている。彩度を表記する場合には、1s、2s、3sのように、数字の後ろにsの記号を付ける。このsの記号は、Saturation（サチュレーション）の頭文字で（ B ）という意味である。この数字が大きいほど、彩度は（ C ）。彩度段階が1s〜3sを（ D ）、4s〜6sを（ E ）、7s〜9sを（ F ）といい､とくに9sにあたる色を､その色相の（ G ）と呼んでいる。

①10　②9　③5　④純色　⑤強い
⑥高い　⑦飽和度　⑧高彩度　⑨中彩度　⑩低彩度

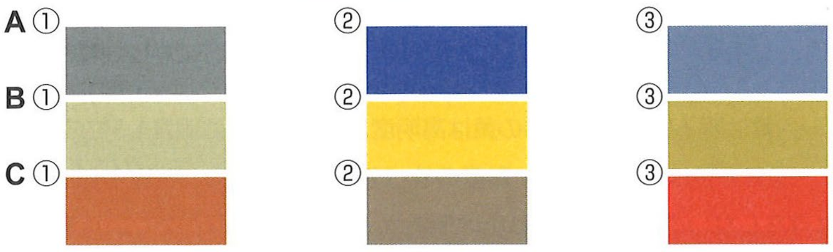
肆

問題Ⅰ 下記のA〜Dに適切な語句を入れて文章を完成させなさい。

赤み・黄み・青みなど色みを有する色のことを（ A ）という。（ A ）は、同じ色相の色でも、色みの強い色や弱い色がある。たとえば「真紅」のバラの花は赤みが強く、「ごくうすい赤」の桜の花は赤みが弱い。このように同じ赤の色相の色にも、色みの強弱がある。この「色みの強弱」のことを（ B ）という。色みの強い色は（ B ）が（ C ）く、色みの弱い色は（ B ）が（ D ）いと表現する。

①色相　②明度　③彩度　④有彩色　⑤無彩色　⑥高　⑦低

問題Ⅱ A〜Cの各々について彩度が高い順に並べなおしなさい。



問題Ⅲ A〜Eに適切な語句を語群から選び、文章を完成させなさい。
（同じ答えを何回使ってもよい。）

赤に多めの白を加えると（ A ）になる。この場合、色相は（ B ）が、明度は（ C ）くなり、彩度は（ D ）くなる。一方、赤に黒を加えると、色相は（ B ）が、明度は（ E ）く、彩度も（ D ）くなる。つまり、赤に白を加えても黒を加えても、色相は（ B ）が、彩度は必ず（ D ）くなるのである。

①ラベンダー　②ピンク　③黄みに寄る　④紫みに寄る
⑤変化しない　⑥高　⑦低　⑧大き

x1.73